

令和6年度重層的支援体制構築推進
人材養成研修・広報啓発事業

仲間づくり編 事務局資料

2024年10月30日（水） 9:30-12:30
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット

目的

- 包括的な支援体制の構築に向けたプロセスを学ぶ
- 庁内外関係者をつなぎ、連携をさらに広げ深める

主な対象者

- 包括的な支援体制の構築に向けて、庁内外関係者と協力体制をつくっていききたい市町村、協力機関（委託先等）の職員
 - 集合型研修は定員150名程度
- ※ 受講希望者多数の場合、本年度に重層的支援体制整備事業を開始する市町村を優先
- ※ 市町村ごとに参加者とりまとめて、庁内外関係者と一緒に参加いただくことを想定

概要

- オンライン研修→実践→集合型研修（学び、対話、実践を支援するプログラム）

期待される 効果

- わがまちで起きている問題や活かそうな取組等を把握し関係者と共有できる
- 地域共生社会の理念や包括的な支援体制の必要性について自分の言葉で語れる
- わがまちの庁内外に仲間ができる
- 研修を機に、庁内外の関係者と協力して取り組みたいことが動き出す

仲間づくり編の流れ

事前説明会資料を
一部修正

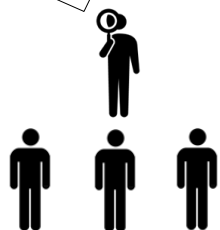
研修前

研修

研修後

申込準備

誰と参加・実践
しょうか？



- 一緒に参加・実践するメンバーを探す
- 代表者が取りまとめて参加申し込み

オンデマンド

基本的な理念
や制度を各自
で理解



- 包括的な支援体制の制度の背景や経緯等について学ぶ

オンライン研修
(3~4時間)

連携・協働につ
いて共通認識
を持つ



各市町村で1拠点に集まり
オンライン参加することを想定

- 連携・協働、対話の必要性について学ぶ
- 実践演習の取り組み方を学ぶ

実践演習
(約1か月)

わがまちで何が
できるかな？



- 個別ケースも踏まえた仲間づくりについて対話
- これから取り組みたいことを検討する

集合型研修
(3~4時間・
東京)

それぞれのまち
の取り組みから
学ぼう



各市町村から代表者が
参加することを想定

- 各市町村の実践結果を共有する

各地での
実践

みんなでやって
みよう

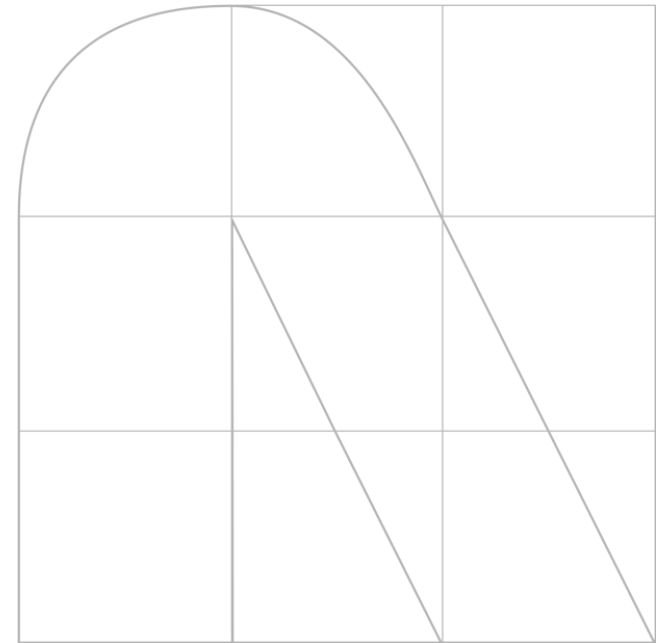


- 集合型研修のフィードバック
- 包括的支援体制構築に向けた実践・積み重ね

仲間づくり編（オンライン研修・カリキュラム）

時間	タイトル	担当	実施概要
9:30-9:35 (5分)	・ 開会	事務局	・ 本件研修のねらいの説明、講師紹介 等
9:35-10:35 (60分)	・ トークセッション	講師	・ 包括的支援体制の構築に向けて、福祉分野以外も含めた庁内外関係者との連携・協働について、具体例を通じて学ぶ
10:35-11:35 (60分)	・ ケース検討セッション	講師 受講生	・ 仮想のケースを題材に、本人本位の考え方について理解を深める ・ 全体60分 －趣旨の説明 －ケース説明 －ケース検討（各市町村で実施） －全体発表 －講評
11:35-11:45 (10分)		休憩	
11:45-12:15 (30分)	・ ワーク	講師 受講生	・ わたしの仲間づくり（わがまちの仲間づくりのプロセス）を振り返る（市町村内ワーク） －個人ワーク －市町村内共有 －全体発表（話してみて感じたこと）
12:15-12:30 (15分)	・ 実践演習ガイダンス	事務局	・ 実践演習の取り組み方を確認する

ケース検討シュミレーション



仲間づくり編 (オンライン研修) 「ケース検討シミュレーション」 で何を**体感**してもらいたいのか

ケース検討シュミレーション

この絵が言いたいことは何？



出典：フリー百科大辞典『ウィキペディア』

ケース検討シミュレーション

今日のキーワード

「本人本位」とは？

人はそれぞれ多様な面を持っています。
一面からのみで理解しないことを心掛けましょう。

- ・これから皆さんは、紹介される事例のある側面を知っている人になりきっていただきます。
- ・想像力を働かせ、生活者として考えられる、あらゆることを想定します。

ケース検討シミュレーション

「**視点**の交換」とは？

「視点」「視野」「視座」の違い

「対話」とは？

「対話」と「会話」の違い

「対話」場面の3原則

- 安心して話ができる場（個々の価値観は否定されない）
- 自分の気持ちを言語化（客観化、深堀）
- 相互理解（すり合わせ）

ケース検討シミュレーション

基本流れ



ケース検討シミュレーション

「ケース検討シミュレーション」の進め方

仮想ケースの紹介 5分

各グループ（チーム）で、以下の2つの方法（シーン）で検討を進めます。

方法（シーン）1 皆さんは、福祉関係者、行政職員として、
Aさんについて語ってください。（現状の立場で）
(20分)

方法（シーン）2 皆さんは、Aさんがかつて知っている人です。
生活者・民間人として、Aさんについて語ってください。（なり
切って）
(20分)

ケース検討シミュレーション

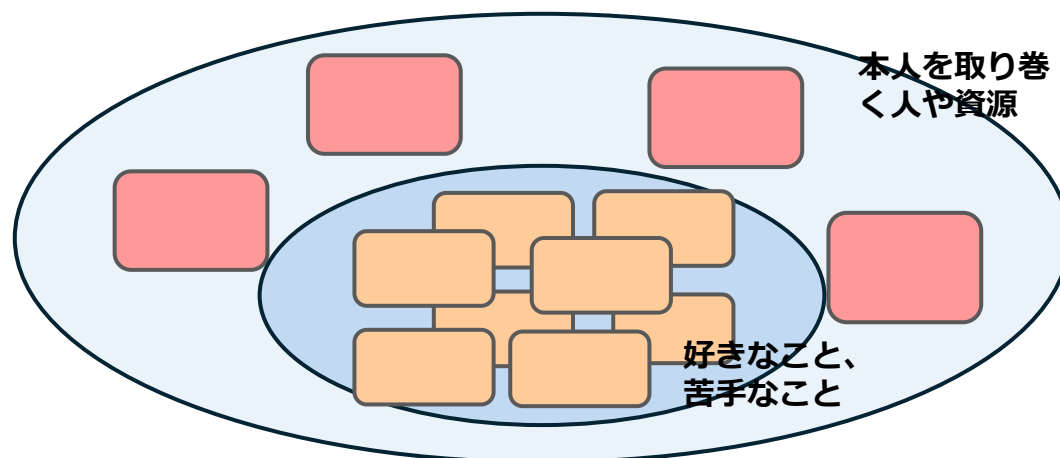
方法（シーン） 1 皆さんは、福祉関係者、行政職員です

①個人ワーク 2分 （それぞれ1つ以上、出してください）

①仮想ケースについて、Aさんはこんな人だと思う（好きなこと、苦手なこと）

②Aさんを取り巻く知り合いや関係者を挙げてください

②グループワーク 10分 （視点の交換） ※イメージ



※12分たったら、案内をしますので（または一度メインルームに戻ってもらう）、方法（シーン）2に移ってください。

ケース検討用ワークシート（シーン1）

- 皆さんは、福祉関係者・行政職員です。
- 仮想ケースについて、Aさんはこんな人だと思う（好きなこと、苦手なこと）を1つ以上、出してください。
- また、Aさんを取り巻く知り合いや関係者を挙げてください。

②Aさんを取り巻く知り合いや関係者

①Aさんの
好きなこと・嫌いなこと

ケース検討シミュレーション

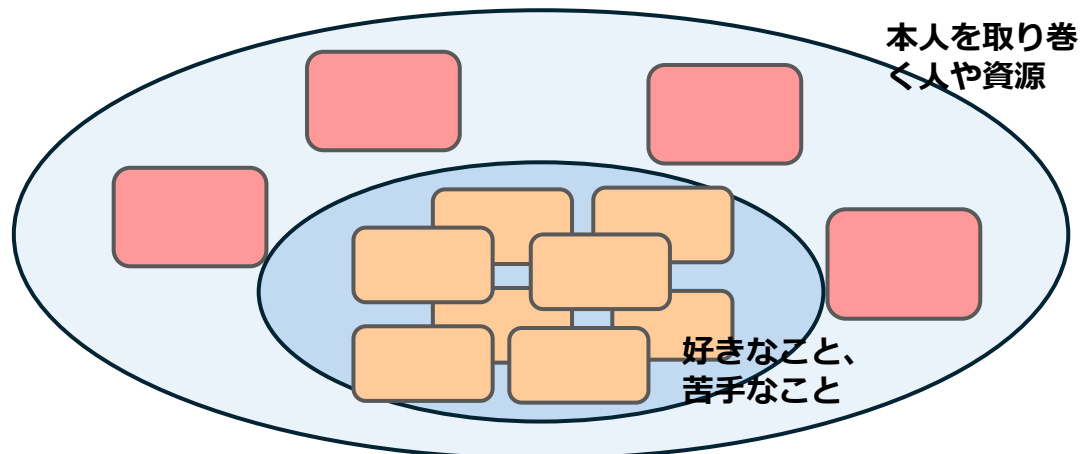
方法（シーン） 2 皆さんは、Aさんのかつての知り合い・町の人です（なり切ってください）

③個人ワーク 2分 （それぞれ1つ以上、出してください）

①仮想ケースについて、Aさんはこんな人だと思う（好きなこと、苦手なこと）

②Aを取り巻く知り合いや関係者、紹介したい人を自由に挙げてください

④グループワーク 10分 （視点の交換） ※イメージ



ケース検討用ワークシート（シーン2）

- 皆さんは、Aさんのかつのての知り合い・Aさんと同じ町の人です。
- 仮想ケースについて、Aさんはこんな人だと思う（好きなこと、苦手なこと）を1つ以上、出してください。
- また、Aさんを取り巻く知り合いや関係者を挙げてください。

②Aさんを取り巻く知り合いや関係者

①Aさんの
好きなこと・苦手なこと

ケース検討シミュレーション

⑤以下について話し合ってください。（5分）

○2つの方法（シーン）によって、自分の考えが異なりましたか？

○①と②で与えられた視点、考え方は違いましたか？

ケース検討シュミレーション

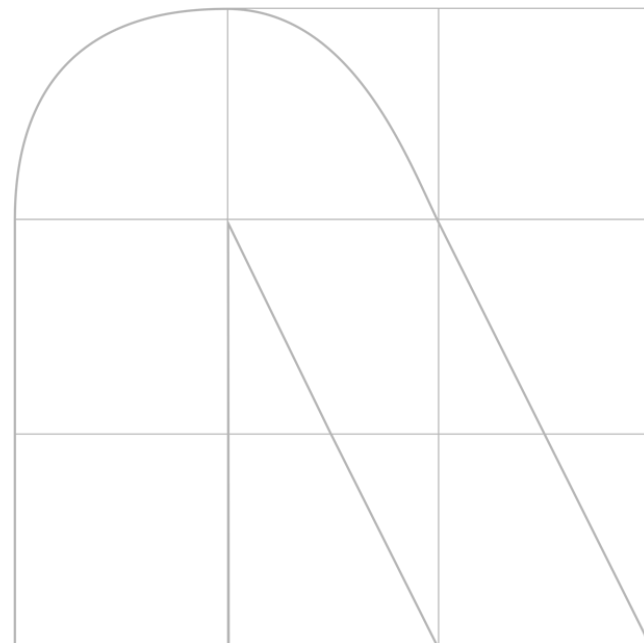
全体発表

シーン1 とシーン2 ではどのような違いがありましたか？

具体的にどのような違いでしたか？

または違いはありませんでしたか？

ワーク



ワーク

わたしの仲間づくり（わがまちの仲間づくりのプロセス）を振り返る
：できている、気になっているわたしたちの仲間づくり（対話）

個人ワーク 5分 （それぞれ2つ以上、出してください）

①わたしにとって、
わたしたちにとって
今の仲間は？

②どのような人と仲間
になりたいか？

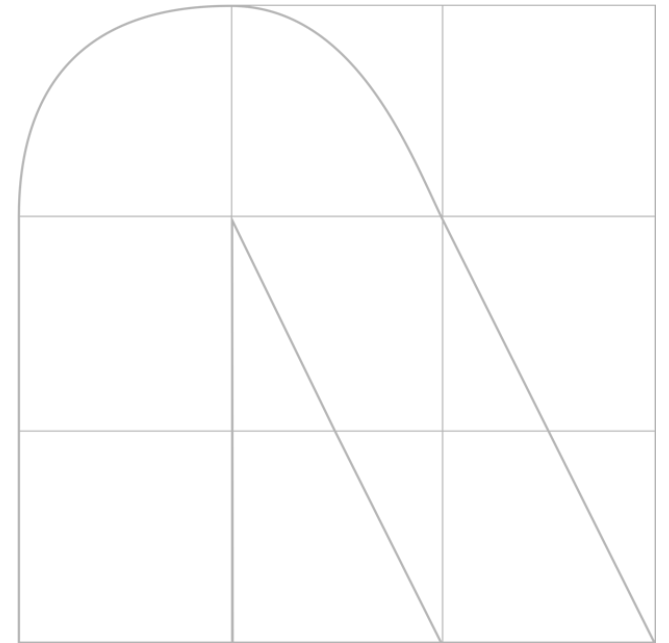
グループ内（市町村内）共有 15分 （対話：同意や疑問）

発表 10分 ；話してみて**感じたこと**（話した内容ではありません）

メモ

※ご自由に活用ください。

実践演習ガイドンス



仲間づくり編・実践演習の概要

実践 演習 の目的

- ✓ 個別ケースを踏まえて、新たな仲間をつくっていくことに焦点を当てるため、仲間になってほしい人の発想を広げる。
- ✓ 仲間とともにケースに対応するため、どのような取組が必要か、アイデアを出す。

<趣旨>

- 実践演習ではわがまちの実際の個別ケースをもとに、仲間になっていきたい人を考え、仲間として一緒に取り組むために必要な一歩を考えます。
- 演習内容について参加メンバーと事前に共通認識を持ち、個別ケースの情報提供や準備に協力して取り組みましょう。

<実施内容>

1. 事前準備

- 1－① 参加メンバーを決める
- 1－② 検討するケースを決める

2. チーム検討（目安：2時間前後）

- 2－① わがまちのケースを振り返る
- 2－② つながりたい仲間を考える
- 2－③ 仲間づくりに向けた取組を検討する

1. 事前準備

1－① 参加メンバーを決める

実践演習の「2. チーム検討」の場に参加してもらうメンバーを決めましょう。

<本研修に複数人で参加している場合>

- 一緒に研修に参加しているメンバーだけで取り組んでも、参加者を増やしても構いません。

<本研修に1人で参加している場合>

- まずは包括的な支援の実現に向けた仕組みや体制を一緒に考えていくメンバーに声をかけましょう。
- 市町村内での連携状況等に応じて、関係部門や庁内外に参加者を広げても問題ありません。

<ポイント>

- 包括的な支援体制の構築にあたり庁内外の仲間をつくっていく視点が非常に重要です。
- 一方、初めから関係機関をリストアップして大所帯で実施すると、コミュニケーションの密度が低くなり相互理解や対話が不十分になってしまう可能性もあります。
- まずは少数から始めて意識を合わせ、研修終了後に参加メンバーを増やして再度本演習を実施するなど、徐々に仲間やチームを広げていく視点も持って取り組んでみましょう。

1. 事前準備

1－② 検討するケースを決める

実践演習の「2. チーム検討」の場で検討するケースを決めましょう。

<どんなケースを扱うか？>

- 介護・障がい・子育て・生活困窮などの既存の制度の狭間にある事例や複合化した課題を抱えている世帯など、複数の支援機関が関わった事例を取り上げましょう。
- 振り返りができるよう、過去の事例で構いません（すでに重層会議等で扱ったケースも可）。

<何件扱うか？>

- うまく連携できた事例とそうでない事例を、最低1件ずつ選定ください。
- 参加メンバーが集まって検討できる時間に応じて、実施件数を決めてください。

<事前準備>

- 「2. チーム検討」の場で共有できるよう、「ワークシート①ケース情報」に記入し配布しましょう。
（各市町村の既存様式を使っても構いません）
- ケースの基礎情報は、支援機関の担当者自身を書いて構いませんし、チームメンバーが事例担当者にインタビューをして書いて構いません。
- 日ごろ個別支援に直接関わっていない行政担当者は、この機会に事例担当者にインタビューしてみましょう。

1. 事前準備

1－② 検討するケースを決める

ワークシート①ケース情報

※各市町村の既存様式を使っても構いません

検討するケースの基礎情報		
対象者の概要	当初の状況	支援の経過・結果
チームメンバーと共有するための支援事例の概要をインタビュー等によって記載してください。		
対象者の基本的な情報や生活課題・望む暮らし・興味関心等について記載してください	対象者の当初の状況を記載してください	支援の経過・結果を記載してください

2. チーム検討

2－① わがまちのケースを振り返る

目標

- ✓ わがまちで連携・協働が必要なケースを関係者間で共有する。

<趣旨>

- 包括的な支援体制の構築は、わがまちの実情にあった必要な取組を関係者との合意のもとに積み上げ、実現されるものです。
- 関係者と合意していくために重要なのは、連携が必要な個別ケースの実態を把握することや、一緒に取り組む上での課題が共有されていることです。そうした根拠に基づく取組でなければ、何のための仕組みや取組なのかは理解されませんし、本当に必要な仕組みかどうか分かりません。
- この後の工程につなげられるよう、連携が必要などのようなケースがあるのか、どのような連携課題があるのかを参加メンバーとともに確認しましょう。

<実施内容>

- 「1. 事前準備」で選定したケースを参加者間で共有する。
- その際、オンライン研修で学んだ「本人本位の視点」や「福祉以外のつながり」なども意識しましょう。
- 「ワークシート②本人本位の検討」を使って、本人の多面性に着目して考えてみましょう。

2. チーム検討

2－① わがまちのケースを振り返る

- 選定したケースの本人の望みや好きなこと・嫌いなこと・関心などを挙げ、本人と重なりがありそうな人や地域の活動についても思いをはせてみましょう。
- 福祉分野に限らず、本人の多面性に着目して様々なつながりの可能性を洗い出してみましょう。

本人と重なりがありそうな人や資源
地域で色々な人と関わりながら楽しそうに活動している人・団体
※まだ出会っていない人や活動も含め記載してください。

本人の
好きなこと・苦手なこと

★ポイント：

真ん中の円には、その人の課題だけでなく関心やできることを記載し、福祉的なものに限らずあらゆる資源を洗い出してみましょう。

2. チーム検討

2-② つながりたい仲間を考える

目標

- ✓ 実際のケースを踏まえて、仲間づくりの取組を確認する。

<趣旨>

- ケースをさかのぼって考えることで、「あの時このような支援ができていればよかった。このようなタイミングで関わることができる人がいて、気づく事ができたらよかった。」といった気づきにつながります。
- そうした気づきをもとに、既につながっている仲間やこれからつながりたい仲間としてどのような人がいるか、つながりたい仲間と一緒に取組を行うためにはどのようなことが必要だったか振り返ってみましょう。

<実施内容>

- 2-①で共有したケースをもとに、すでにつながりのある仲間との取組とつながりがあったらよかった仲間を参加メンバーと洗い出してみましょう。
- 挙げた意見を、「ワークシート③」の左側に書き出してみましょう。

2. チーム検討

2-② つながりたい仲間を考える

ワークシート③ 仲間づくりに向けた取組検討シート

場面・フェーズ	ケースを振り返ってみて・・・	
	①すでにつながりのある仲間との取組 （「偶然・時々」できていることもOK!）	②つながりがあったらよかった仲間
対象者の 状況把握	共有されたケースをもとに、すでにつながりのある仲間との取組（できていること）を①に、つながりが合ったらよかった仲間を②に、支援の場面・フェーズごとに挙げてみましょう。 ※本人本位の視点に立って検討した内容も踏まえて検討してみましょう。	
支援関係 機関にお ける連携と 自律に向 けた支援	<支援の場面・フェーズのイメージ> ●対象者の状況把握 世帯等へのアプローチ、相談支援までのつながりなど、相談につながりにくかった世帯に対する関係構築などを想定	
地域等と のつながり	●支援関係機関における連携と自律に向けた支援 複雑化・複合化した課題について、情報共有や支援方針の検討、役割分担など支援関係機関の連携、本人の生活意識の変化に向けた支援方策の検討や提示などを想定 ●地域等とのつながり 本人の暮らしの中でのつながりを活かすこと、地域資源の発見や開発、地域社会とのつながりづくりなどを想定	
継続的な 支援	●継続的な支援 支援終了後、何か状況変化があった場合の連絡など継続的な支援などを想定	

③仲間づくりに向けて取り組みたいこと
①のできていることを、「継続的に・いつも」できるようにするために考えられることや、 2-③で作成 ②のできたらよかったと思うことを実現するために考えられることを チームで検討してみましょう。 初めから1つに絞り込む必要はなく、考えられるものを複数挙げてみてください。

2. チーム検討

2－③ 仲間づくりに向けた取組を検討する

目標

- ✓ ケースに根差した取組アイデアが複数挙がる。
- ✓ 取組アイデアの実行や、アイデアが妥当かを確認するための、次のアクションが決まる。

<趣旨>

- 包括的な支援体制は、個別ケースをもとに、頼れる仲間を増やしていくことの積み重ねにより、徐々に構築されるものです。
- ここでは、既にいる仲間やこれから仲間になりたい人たちと今後ケースに対応するために必要な取組を検討し、仲間との連携・協働のために必要な取組や体制の企画につなげていきます。
- また、参加メンバーだけで考えた取組アイデアが、そこに参加していない関係者にとって納得できるものでなければ、賛同や協力を得ることができません。
- 考えた取組アイデアのうち優先度が高そうなものを絞り込み、ここに参加していない関係者の意見を聞くなどの次のアクションにつなげてみましょう。

<実施内容>

- 2－②で検討した内容を踏まえ、「ワークシート③」の右側に、今後取り組みたいことを書きだしてみましょう。
- 取り組みアイデアについて優先順位を検討し、アイデアを実行していくため、またはその妥当性や優先順位を確認するために更に検討すべきことについて、「ワークシート④」に書き出してみましょう。

2. チーム検討

2－③ 仲間づくりに向けた取組を検討する

ワークシート③ 仲間づくりに向けた取組検討シート

場面・フェーズ	ケースを振り返ってみて・・・	
	①すでにつながりのある仲間との取組 （「偶然・時々」できていることもOK！）	②つながりがあったらよかった仲間
対象者の状況把握		
支援関係機関における連携と自律に向けた支援	2－②で作成	
地域等とのつながり		
継続的な支援		

③仲間づくりに向けて取組みたいこと

①の既につながっている仲間とできていることを、「継続的に・いつも」できるようにするために考えられることや、
②のつながっていたらよかった仲間とつながるために取組みたいことをチームで検討してみましょう。

初めから1つに絞り込む必要はなく、考えられるものを複数挙げてみてください。

2. チーム検討

2－③ 仲間づくりに向けた取組を検討する

ワークシート④ 取組アイデア検討シート

(1) 最初に取り組みたいアイデアとその理由

仲間をつくっていくために、最初に取り組みたいと思うこととその理由を記載してください。
※「ワークシート③」に挙げた「取り組みたいこと」を踏まえて検討ください。

取組アイデアは、関係者の問題意識にもとづくものであればどんなものでも構いませんが、小さな成功体験を積み重ねることが大切です。あまりに壮大なものや時間がかかりそうなもの・難しそうなものよりも、重要かつ実現できそうなものを挙げると良いでしょう。例えば過去の研修では、庁内向け研修、会議の際のグランドルールの整備、情報共有の様式作成、重層会議の試行、福祉現場ツアーなどが企画されました。

(2) 次のアクション

取組アイデアの実行に向けて、アイデアの妥当性や優先順位を確認するために更に調査や検討が必要と思うことや行動してみたいことを挙げてみましょう。

NTT Data